

令和7年度分 事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

事業所名	子ども発達総合支援センター			
保護者評価 実施期間	令和 7年 12月 15日		～	令和 8年 1月 30日
保護者評価 有効回答数	対象者数	150人	回答者数	85人
職員評価 実施期間	令和 8年 1月 7日		～	令和 8年 1月 16日
職員評価 有効回答数	対象者数	28人	回答者数	28人
事業所向け自己評価表 作成日	令和 8年 2月 27日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや 意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種で支援・連携ができる	・多職種が連携し、各々の専門的視点から多角的にこどもの特性を捉え、最善の支援を検討し提供している。	・専門職員の知見を職員間で共有するとともに、引き続き多職種で連携を図りながら、チームでの支援に取り組んでいく。
2	専門性を活かした支援を行っている	・様々な専門職員がいることで、個別療育が充実している。 ・集団療育にも専門職員を配置し、こどもの特性に応じた多角的なアプローチをしている。	・研修等により各自のスキルアップを図り、職員の専門性を高めていく。
3	支援体制が充実している	・療育の種類が多岐にわたり、センター内で複数の療育を受けることができる。 ・保護者と通所するため、こどもだけでなく、保護者支援も行いやすい。	・保護者の悩みや不安に寄り添い、継続的な支援ができるよう、児童発達支援終了後のつながりも検討していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている 課題の要因等	改善に向けて 必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の保育園等との交流がない	・センターを利用しているこどもは市内全域から通所し、日常では地域の保育園等に通園しているため、地域や他のこどもたちとは、就園先で交流していると捉えている。	・保護者のニーズ調査等をもとに、交流の必要性を検討していく。
2	きょうだい児への支援や交流の機会がない	・児童発達支援センターとして、通所支援のほか、保育所等訪問支援、家族支援等、多種多様な支援に取り組んでおり、投入できる職員数に限りがある。	・センターの体制も含め、きょうだい同士で交流する機会の直接的な設定ではなく、まずはきょうだい児を支援する家族団体に対して、活動場所の提供や専門職員の助言を通じ、きょうだい児や保護者の交流、思いが共有できる場づくりを間接的に支援していく。